

**質問** 私達の町と都市部と比較したら、介護サービスはどれくらい違うのか。

**町民課長** 例えば、施設入所であれば幌延町には特養しかない。在宅に関しては、受けられるサービスは限られている。これからサービスを充実させて、高齢者が元気で在宅で暮らせるようなものに取り組んでいきたいと考えている。

**質問** 特養が大変経営に苦勞している中で今の40床を維持している。旭川市などで問題になった無許可の老健施設みたいなものも出てきている。町としては40床プラスアルファで今の人口流出だとかを食い止められると考えているのか。

**町長** この40床が適正か、40床をどういう形で進めて行くかの議論でなろうかかと思っている。現在、要介護3以上の方が本来入るべき施設だが、現実としてそれ以外の人も受け入れているので、採算的には厳しい。しかし、2025年を考えると、高齢者の比率が増え、高齢者の比率が増えながら、増えた分については支援したい。

**質問** 全国的にも15万人以上の特養老人ホーム待機者がいて、今年度段階でも65歳以上の人が3千万人を超えるといわれている。民間の活力を含めて考えて行くべき。

**町長** 考え方は同感だ。



斎 賀 弘 孝

## 平成28年度 執行方針について

### 町政執行方針について

**質問** 平成28年度予算の所見は。

**町長** 町財政の健全化を維持しながら、多様化する町の行政需要に応えること

が出来た。  
**質問** 創生総合戦略予算は確保出来たか。

**町長** 創生総合戦略の担当部署の整理と行程表の策定に取り組み、平成28年度当初から進めることが出来る施策、進めるべき施策を計上した。

**質問** 平成28年度創生推進交付金がなかなか幌延の戦略に合致しないというのはなぜか。

**町長** 観光分野に対する交付金が、単町の取り組みでは難しい側面がある。3月中には申請事業の可否通知がある。

**質問** 各種施策のPR展開は。

**町長** 広報4月号で特集記事の掲載、支援制度活用案内もホームページ、告知端末等で情報発信する。

**質問** 自ら町外に出て、広く道外にもPRする方法もあるのでは。北海道暮らしフェア参加・北海道商工会の物産展参加などをして、まずは幌延町を知ってもらっては。

**町長** その面は遅れている

と私も認識している。宗谷振興局管内でも東京23区との連携の提案をいただいているところで、委員の方々にも戦略追加して良いかお諮りしながら、移住定住をPRしたい。ただ、残念ながら地元物産品がない。

**質問** 物産品がなくても、ゆるキャラグランプリはどうか。ホロボー・ブルビーなどの着ぐるみが全国から集まってPRする。

**町長** 広域的に各地域と結びPRしていく事業について、協議したい。

### 教育行政執行方針について

**質問** 3校ある町内小中学校の特色をどう認識したか。

**教育長** 3校それぞれの良さを幌延町全体の取り組みとして活かしたい。更に連携を深める教育のため、児童生徒の授業交流、テレビ会議システム活用の授業の構築を推進していく。

**質問** 人づくりのための具体的施策は。

**教育長** ふるさと幌延に誇りを持ち、地域や地域の産業を支える人材、グローバルに活躍出来る人材を育成



サロベツ太鼓

していく。

**質問** 今年度の取り組みは、充実させるため、タブレットやパソコン等を積極的に活用した授業を推進し、新たに外国語指導助手を配置し、英語学習の指導を図る。

**教育長** ICT教育環境を充実させるため、タブレットやパソコン等を積極的に活用した授業を推進し、新たに外国語指導助手を配置し、英語学習の指導を図る。そのため、各学校約2クラス分の児童生徒・教師用タブレット、電子黒板及びノートパソコン、実物投影機等の購入予算を計上した。

**質問** 郷土芸能についてどう育てるのか。

**教育長** サロベツ太鼓のことと捉えるが、昭和52年間寒別小中学校児童生徒で結成され、今は地域在住のOBにより伝承されている。今後、会の考え方を伺いながら、支援していきたいと考える。